

Spoken Japanese 所収の練習問題の現代的意義

The Contemporary Significance of the Exercises Compiled in *Spoken Japanese*

池田菜採子 (名城大学 外国語学部)

IKEDA, Natsuko, Faculty of Foreign Studies, Meijo University

要約

言語学者 Bernard Bloch は、太平洋戦争中のアメリカで日系人のインフォーマントを相手に日本語研究を行い、数々の優れた日本語論及び *Spoken Japanese* (以下 SJ と略す) という日本語教科書を発表した。SJ は、軍人が話し言葉を習得することを目的とし、また独学でも学べるように工夫された教科書であったため、実に数多くの練習問題が収録されていた。話すための練習をすることは現在でこそごく普通のことだが、SJ 以前の日本語教科書には練習問題はほとんど見当たらない。その意味において SJ は非常に画期的な教科書であったと言えよう。本稿では Bloch が作った練習問題がどのようなものであったのか詳しく考察する。

Bernard Bloch, an American linguist, with extensive researches and studies of Japanese language on Japanese American informants in the U.S. during the Pacific War, has published a number of excellent Japanese language thesis and Japanese language textbooks called *Spoken Japanese* (hereinafter called "SJ"). SJ contains a large number of exercises because it is designed for military personnel to acquire spoken Japanese, and is also suitable for self-study. Before SJ, speaking exercises were hardly found in most of the Japanese language textbooks, though it is quite common nowadays to practice speaking. In this sense, SJ was a very innovative textbook. With this paper, I will discuss what kind of exercises Bloch created in detail.

キーワード : Bernard Bloch, *Spoken Japanese*, ASTP 教授法, 構造言語学, 練習問題

1. はじめに

言語学者 Bernard Bloch が書いた日本語教科書 *Spoken Japanese* (以下 SJ と略す) には実に多くの練習問題が収録されている。当時の言語教育というと模倣や暗記という語で説明されることが一般的だが、Bloch の練習問題は、現代の日本語教育に携わる者から見て、大変興味深く、また示唆に富むものであり、単に模倣や暗記という枠組みで説明できるものではない。

本稿の目的は、Bloch が作成した練習問題を詳しく検討し、Bloomfield や Jorden の作成した練習問題と比較検討し、その現代的意義を明らかにすることにある。

2. *Spoken Japanese*前後の言語教育

太平洋戦争以前のアメリカは、語学教育にさほど熱心でなく、話すことよりも読むことを優先した文法訳読法やリーディング・メソッドといった教授法が中心であった。戦争の遂行によって口語習得の必要が生じ、構造言語学者 Bloomfield を中心に言語学者たちが言語教育に協力し、*Spoken Japanese* や *Spoken Dutch* など、Spoken Language Series と呼ばれる外国語教育教科書シリーズを作成したことは、池田（2014）で詳しく述べたとおりである。その手法は後に ASTP¹教授法と呼ばれるようになった。ASTP 教授法は、次に引用するように、暗記や模倣というキーワードで説明されることが多い。

(2-1)

〔中略〕教授法にはオーラルアプローチが採用され、読む、書く、話す、聞く、の4技能のうち“話す”が最優先に教えられた。文法説明は米国人教師が行い、口頭練習は日系人インフォーマントが受け持ち、学習者は徹底してインフォーマントの話し方を模倣し(mimicry) 暗記する(memorization)という方法が採られた。

（関, 1997, p. 99）

(2-2)

〔中略〕*Spoken Japanese* について少し述べると、ブロックはアメリカン、インディアン語の研究に広く用いられた構造言語学の理論と方法を応用し、日本語を分析研究し、それに基づいてこの本を著した。

特徴としては、

ア. 話しことばを主体とする。（ローマ字だけを使う）

イ. 何度も何度も繰り返す。繰り返すことによって、単語や文を覚えてしまう。

やり方としては、

ア. 文法の説明は、アメリカ人の言語学者によって行われる。

イ. あとは、もっぱらおうむ返しに繰り返して練習する。文型練習とも違い、ただ文を何度も繰り返す。

（小出, 1972, p. 244）

こうした説明は確かにその通りである。Bloch自身、SJの中で何度も‘MEMORISE THE BASIC SENTENCES’ (Bloch & Jorden, 1945a, p. v)、‘Only by direct imitation will you learn to speak with fluency’ (Bloch & Jorden, 1945a, p. iv)などと述べ、模倣と暗記の重要性を説いている。

Spoken Language Series の教科書には練習問題が収録されているものが多い。これは非常に画期的なことであった。SJ 以前に書かれた教科書は一般的に文法説明が中心で、少なくとも日本語教科書に限って言えば、練習問題が収められているものは見当たらない。

Baba (1873)、Chamberlain (1888)、Yamagiwa (1942)、Henderson (1943)などの日本語教科書に練習問題は収録されていない。Spoken Language Series の教科書は、口語習得を目的としたため、話すための練習をする必要性が生じたこと、また教室での使用を前提とせず、軍人が独学で日本語を学べるように工夫された教科書だったことが、数多くの練習問題を必要とした理由であったと考えられる。また Spoken Language Series の教科書には付属レコードがあったことは池田 (2016) で述べた。レコードがあったことで発音練習や聴解練習が作れるようになったことも理由の1つであろう。

Spoken Language Seriesの練習問題といっても、内容は特に統一されているわけではなく、実に色々であった。練習問題の作成はそれぞれの言語学者に任されていたようである。とりわけBlochが著したSJには、ほかのSpoken Language Seriesの教科書とは趣の異なる練習問題が数多く所収されている。次節ではBloomfieldの*Spoken Dutch*とBlochのSJでどう練習問題が異なっているか考察する。

ASTP 教授法の後、オーディオ・リングル・アプローチが登場するが、これがどういう練習方法であったのか、Jorden の *Beginning Japanese* についての、高見澤 (2005) の考察を見ておきたい。

(2-3)

Beginning Japanese は、その教育手順が明解なテキストであり、正規の訓練を受けた教師はまったく同じ手順で教育を進めることになっていた。

1) Basic Dialogues の教授法

- ①Listening (聞き取り練習—教師が対話を聞かせる)
- ②Pronunciation (発音練習—新出語彙と対話文の発音練習を通して暗記する)
- ③Fluency (流暢さ練習—対話文を流暢に話す練習)
- ④Conversation (対話の役割を分担して行う会話練習)

2) 文型練習の教授法

文型練習としては、ジョーデンは主として次の6種類を多用していた。

- ①Substitution Drill (代入練習) ②Grammar Drill (文法練習・転換練習)
- ③Response Drill (応答練習) ④Level Drill (待遇表現練習)
- ⑤Expansion Drill (拡大練習) ⑥Supplementary Conversation (補足会話)

これらの練習は、Audio-Lingual Approach 系のテキストでは一般的に使われているが、*Beginning Japanese* の場合は、量的にも種類の面でも極端に多く、練習の中心となっているといえる。特に、学習者の誤用を誘わない Substitution Drill を多用している。また、社会での実用性に主眼を置くジョーデンは、待遇表現の訓練も重視し、Level Drill も他のテキストは比べものにならないほど、多く取り入れている。これによって「普通体」と「敬体」や「謙譲体」「丁寧体」などを対比させながら練習する手法が日本語教育で行われる

ことになった。これらの文型練習の手法は、それ以降の日本語テキストの開発者に採用され、多大な影響を与えている。

(高見澤, 2005, pp. 10-11)

以上、SJ 前後の主たる練習方法について考察した。

3. Bloomfield、Bloch、Jordenの練習問題

ASTP 教授法と一括りにいっても、Bloch の SJ と Bloomfield の *Spoken Dutch* に収録された練習問題が随分異なるものであることはさきにも述べた。3 節では、その違いを詳細に比較検討していく。

3.1 Bloomfieldの*Spoken Dutch*

Bloomfield の *Spoken Dutch* には、次のような 10 パターンの練習問題がある。それぞれ何問かを簡潔に引用する²。【 】は、それぞれの問題がどのような能力に着目して作られたものであるかを、筆者が分析したものである。

(1) 状況を英語で与え、それにぴったりのオランダ語を選ぶ練習。【語彙】

1. You meet Mr. Dekker one morning about nine o'clock. You say:

- a. ghoeðēn- AAvēnt, mēneer-DEKKēr. b. ghoeðēn- MORghēn, mēneer-DEKKēr.

(Bloomfield, 1944, p. 17³)

(2) 発音練習【音声】

MAN 'man' DACH 'day' WAT 'what' DAT 'that' DANKēn 'thank'

(Bloomfield, 1944, p. 10)

(3) Listening In【談話】【聴解】

Jan : nee-mē-niet-KWAALIK-mēneer.

WAAR IS-ēr ēn-rēstoRANG?

de-HEER : ēr-is-ēn-hooTEL RECHS, en-ēn-rēstoRANG rechTUIT.

JAN : wat-BLIEFT-uu?

ik-fērSTAA-niet wat-uu-ZECHT.

WILT-uu als-t-uu-BLIEFT LANGsaam-spreekēn?

(Bloomfield, 1944, pp. 18-19)

(4) 会話練習【ロールプレイ】【談話】

A: apologizes for speaking to B and asks where a restaurant is.

B: gives directions — to the right, to the left, or straight ahead.

A: apologizes and explains that he doesn't understand. He asks B to repeat, more slowly.

(Bloomfield, 1944, p. 23)

(5) True or False【聴解】【意味】

The Guide, or the records will give you a series of eighty statements, repeating each one twice.
Of the statement is obviously true, mark a T by the corresponding number on your paper;
If it is usually false, mark an F by the corresponding number on your paper.

(Bloomfield, 1944, p. 112)

(6) 英語の文を、オランダ語に訳す練習。【翻訳】

1. Good evening, sir. 2. What time is it? 3. It's four o'clock. 4. It's raining again.

(Bloomfield, 1944, p. 113)

(7) 質問をオランダ語で与え、オランダ語で答える練習。【意味】【会話】

1. WAT-hept-uu ghistër-AAvënt ghěDAAN? 2. bent-uu-OOJT in-niew-JORK-ghěweest?

(Bloomfield, 1944, p. 204)

(8) A から文の前半部、B から後半部を選び、1 文に結合する練習。【マッチング】

A) 1. Het spijt me erg 2. Aangenaam 3. Eergisteren

B) 1. maar het nummer was in gesprek. 2. blijven we altijd thuis. 3. voor de mannen.

(Bloomfield, 1944, p. 269)

(9) オランダ語の文を読み、意味を確認する練習。声に出して練習。【意味】

1. Toen ik het licht aandraaide, zag ik date er niemand in de kamer was.

2. Zij waren allemaal uitgegaan.

(Bloomfield, 1944, p. 306)

(10) 英語の指示を読んで、そのとおりに実践する練習。【ロールプレイ】【作文】

1. Tell someone that you have to write a letter to your family.

2. Ask for pen and ink.

(Bloomfield, 1944, p. 344)

以上の 10 パターンの練習のうち、(1)から(6)は *Spoken Dutch* 以外の教科書、例えば筆者が確認したところ、SJ、*Spoken Portuguese*、*Spoken Spanish*、*Spoken Chinese* にも共通して配置されている問題である。

Bloomfield の練習は(6)の翻訳練習が一番多い。問題数は少ないものの(4)のロールプレイ、(8)の結合練習も若干見られる。

翻訳練習が多いことは少し意外な気がする。Bloomfield は ‘The sounds, constructions, and meanings of different languages are not the same: to get an easy command of a foreign language one must learn to ignore the features of any and all other languages, especially of one's own.’ (Bloomfield, 1942, p. 1) と述べた。しかし翻訳練習ではやはり英語を強く意識してしまう。英語と外国語は構造も意味も全く異なると述べた Bloomfield だが、練習方法としては訳読法に意味を持たせたということであろうか。

3.2 Blochの*Spoken Japanese*

Bloch の SJ には、次のような 47 パターンの練習問題がある⁴。

(1) 状況を英語で与え、それにぴったりの日本語を選ぶ練習。【語彙】

1. You meet someone on the street. a. Arigatoo gozaimasu. b. Koñniti wa. c. Sayonára.

(Bloch & Jorden, 1945a, p. 11⁵)

(2) 発音練習【音声】

ikága sayonára wakarimásu ka tabako géñki hótél beñzyó kore

(Bloch & Jorden, 1945a, pp. 14-15)

(3) Listening In【談話】【聴解】

Tanaka : Koñniti wa.

Doe : Koñniti wa. Ikága desu ka?

Tanaka : Arigatoo gozaimasu. Aikawarazu géñki desu. Tabako ga hosii desu ka?

Doe : Háii. Arigatoo gozaimasu. Mátti ga arimásu ka?

(Bloch & Jorden, 1945a, p. 22)

(4) 会話練習【ロールプレイ】【談話】

A sees B on the street and asks him to wait a moment.

A and B exchange greetings.

A asks the way to a restaurant, a hotel, or a movie theater.

B says it is to the right or the left or straight ahead.

(Bloch & Jorden, 1945a, pp. 24-25)

(5) True or False【意味】【語彙】

1. Sakanaya wa, komé o tukurimasu. 2. Kyúuzi wa, zimúsyó de hatarakimasu.

3. Syokkoo wa, doogú o tukurimasu. 4. Hyakusyóo wa, matí de hatarakimasu.

(Bloch & Jorden, 1945a, p. 77)

(6) 英語の文を適切な日本語に訳す練習。【翻訳】【語彙(数)】

1. Bring me the second book from the right. 2. This is his third glass of beer.

(Bloch & Jorden, 1945b, p. 548)

(7) 空欄を埋める練習。【文法】

空欄に、(arimásu, imásu, désu) を入れる。1. Anáta no tomodati wa, Nihón⁻ ni _____.

空欄に、(ga か wa) を入れる。1. Kyóo__dare__Tanaka-sañ no tokoro e ikimasita ka?

空欄に、(ni か de) を入れる。1. Watakusi wa, inaka__súñde imasu.

(Bloch & Jorden, 1945a, pp. 48, 77, 92)

(8) 英語にぴったりの日本語訳を見つけ、線で結ぶ練習。【翻訳】【マッチング】

(a) What is your name?

(u) Eikokúziñ desu.

(b) He is an English man.

(v) Anáta no namae wa, nán desu ka?

(c) I went as far as Tokyo.

(w) Tookyoo máde ikimásita.

(Bloch & Jorden, 1945a, p. 48)

(9) 文の前半部を与え、適切な後半部を選ばせる練習。【語彙】【意味】【マッチング】

1. Anáta no namae wa, (a) dóko ni arimásu ka? (b) nán desu ka? (c) dare desu ka?

4. Kono góhañ wa, (a)koko ni imasu ka? (b)Beikokúziñ desu ka? (c)hosíi desu ka?

(Bloch & Jorden, 1945a, p. 48)

(10) 職業と関連するものを結ぶ練習。結んだ 2 語を使って作文練習。【語彙】【作文】

(a) isya	(d) zimúin	(u) komé	(x) doogú
(b) súihe	(e) syokkoo	(v) ryooríya	(y) kusuri
(c) hyakusyóo	(f) kyúuzi	(w) zimúsyu	(z) húne

(Bloch & Jorden, 1945a, p. 76)

(11) 部屋の家具の配置を、ほかの言葉で言い換える練習。【語彙】【意味】

Hón no sita ni wa, zassi mo arimásita. →Zassi wa hón no ue ni arimasita.

(Bloch & Jorden, 1945a, pp. 82, 93)

(12) 2 文を結合させる練習。【結合】

1. (a) Kono heyá wa, ookii desu. (b) Kono heyá wa, suzusii desu.

1. (a)Watakusi wa, déñsyu ni norimásita. (b)Déñsyu wa, hayái desita.

(Bloch & Jorden, 1945a, pp. 120, 206)

(13) 質問を日本語で与え、ぴったりの答えを選ぶ練習。【Q&A】【意味】【語彙】

1. Kinoo no téñki wa, dóo desita ka?

(a) Kinóo wa, sáñpo-simaséñ desita. (b) Kinóo wa, áme ga hütte, kaze mo hukimásita.

(c) Kinóo wa, sakana o tábeta kara, byooki désita.

(Bloch & Jorden, 1945a, p. 138)

(14)仲間外れの語を探す練習。【語彙】残りの 4 つを使って作文。【作文】

1. (a) hyakusyóo (b) zimúin (c) beñzyó (d) kyúuzi (e) syokkoo

(Bloch & Jorden, 1945a, p. 145)

(15) 反対語を探す練習。【語彙】反対語がどちらでも入り得る文を作成。【作文】

例えば atatakái と suzusíi なら、Kyóo wa, téñki ga atatakái (or suzusíi) desu (Bloch & Jorden, 1945, 146)のような文を作る。

Group1 (a) déru (b) géñki (c) ii

Group 2 (c) byooki (b)warúi (c)háiru

(Bloch & Jorden, 1945a, p. 146)

(16) 日本語の計算問題に答える練習。【語彙 (数)】【意味】【Q&A】

1. Kono eñpitu wa, zisséñ desita. Teñiñ ni gozísseñ yarimásita. Oturi o íkura moraimásita ka?

2. Nízyuu ni rokú ó tasu to, íkutu ni narimásu ka?

(Bloch & Jorden, 1945a, p. 168)

(17) 数を数える練習。【語彙 (数)】

Practice counting out loud from 1 to 150. Count first by ones, then by twos, then by threes, and so on.

(Bloch & Jorden, 1945a, p. 169)

(18) ゲーム【ゲーム】【語彙 (数)】

『a game of Buzz 』

First, decide on a number —say 7. Then count in Japanese as fast as you can; but every time you come to a number that can be divided by 7, or that contains the number 7 (siti), you skip that number and say “Buss” instead. The player who can count from 1 to 150 in this way with the fewest slips wins.

(Bloch & Jorden, 1945a, p. 169)

(19) 日本語の文を与え、適切な形に変形する練習。【活用】

1. Watakusi wa, háyaku arúku koto ga dekimasu.

(→For each sentence, make up three other versions: one in the past tense, one negative, and one negative past.)

(Bloch & Jorden, 1945a, p. 220)

(20) 名詞に対応する数量詞を選ぶ。【語彙 (数)】数量詞と名詞を用いて作文。【作文】

Group1 básu biñseñ tegami eñpitu Group2 gomai háppoñ yóndai ittuu

(Bloch & Jorden, 1945a, p. 256)

(21) 家系図を見て、文を正しく修正する練習。【読解】【語彙 (家族用語)】【意味】自分の家系図を書いて、人間関係を表す日本語の文を 10 個作る練習。【作文】

1. Tiyoko wa, Tároo no imootó desu.

(Bloch & Jorden, 1945a, pp. 294-296)

(22) 名詞句に適切な動詞を結び付ける練習。【語彙】【マッチング】

Group1 bíiru o hige o kaze ga déñsya ni Nihoñgo de okane o

Group2 hanásu sóru húku nómu kariru noru

組み合わせたものを、非最終節で使った文を作る練習。例えば「本を読む」だったら Hón o yóñde, tegami o kakimásita. や Kyóo sañzikañ mo hón o yóñda kara, taiheñ tukárete imasu のように作りなさい。【作文】

(Bloch & Jorden, 1945a, p. 314)

(23) 3 文を事が起きた順番に並び替え、さらに 1 文に結合する練習。【意味】【結合】【文法】

1. (a) Kamí o katte moraimásita. (b) kami ga añmari nágaku narimásita. (c) Tokoya e ikimásita.

(Bloch & Jorden, 1945a, p. 329)

(24) () 内の語を、適切な形に変える練習。【活用】

1. Gaitoo o (kiru) mo (kinai) mo íi desu. 2. Tomodati ga (ikanai) mo, watakusi wa ikitái desu.

3. Hito ni tegami o (yómu) hodo, kirai na kotó wa arimasēn.

(Bloch & Jorden, 1945a, p. 330, 1945b, p. 645)

(25) 英語で状況を与え、その際の発話として適切なものを選ぶ練習。【語彙】【意味】

1. Which man is talking to the barber?

(a) Nāñzi ni huró ni háiru tumori desu ka? (b) Ano akai hón wa, ikura desu ka?

(c) Kamí ga sukósi nágaku nátta kara, katte kudasái.

(Bloch & Jorden, 1945a, pp. 330-331)

(26) 短い話を聞いたり読んだりして日本語の質問に答える練習。【聴解】【読解】

【Story of Mr. Tanaka】

Tanaka-saṅ ní wa ókusaṅ to hutarí no kodomo ga átte tookyoo ni sūnde imasu. Tanaka-saṅ no utí wa atarasíkute ookii desu. Ie no usiro ní wa kirei na niwa ga arimasu. [中略]

1. Tanaka-saṅ wa, dóko ni sūnde imasu ka? 2. Tanaka-saṅ wa, doñna utí ni sūnde imasu ka?

(Bloch & Jorden, 1945a, p. 336⁶)

(27) 24 個の名詞を見て、時間を表すものに T、場所を表すものに P、両方を表すものに T、P と書く練習。さらに文を作る練習。【語彙】【作文】

aida, kinóo, móto, sóba, ása, kotosi, náka, sóto, asitá, kyóneñ, ototoi, sugí, tonari, usiro [中略]

(Bloch & Jorden, 1945a, p. 339)

(28) 名詞句や文型を使って、文を作る問題。【語彙 (数)】【作文】

1. tegami o nituu 2. sañsēñ sika 3. okási o hitóhukuro 4. hassatú no hón ga

1. asobu kotó ga áru 2. Notta kotó ga áru 3. Déru koto ni suru 4. Hataraku kotó ni náru

(Bloch & Jorden, 1945a, p. 339, 1945b, p. 699)

(29) 複合動詞を作る練習。【活用】

1. hataráku, sugíru 2. beñkyoo-suru, hazimeru 3. waku, nikúi 4. hanásu, sugíru

(Bloch & Jorden, 1945b, p. 374)

(30) 文型を変える練習。【変型】【活用】

(‘Let’s do so-and-so’ → ‘Let’s decide to do so-and-so’)

1. Kono matí ni sumimasyóo. 2. Kónbañ, éiga o mí ni ikimasyóo.

(‘I want to do so-and-so’ → ‘I want somebody to do so-and-so for me’)

1. Kesa tegami o kakitái desu. 2. Mádo o aketái desu.

(Bloch & Jorden, 1945b, pp. 375, 491)

(31) 与えられた文の続きとして、最も適切なものを選ぶ練習。【意味】【マッチング】【語彙】

1. Ima hirugóhan o tábe ni ikoo to omótte iru tokoro desu.

(a) Ima gózi desu. (b) Ima hatízi desu. (c) Ima zyuunízi desu.

(Bloch & Jorden, 1945b, p. 530)

(32) これまでに習った語や句を英語で聞いて、すぐ日本語で言う練習。【翻訳】

The leader will call out various English words and phrases from Parts One and Two, and will ask the members of the group, one at a time, to give the Japanese equivalent. Don't prepare for this part of the review, but try to think of the proper Japanese word or phrase as soon as you hear the English.

(Bloch & Jorden, 1945b, p. 557)

(33) 形容詞を与え「より」「ほど」「一番」を含んだ比較文を作る練習。【語彙】【作文】
【文法】

amai, asai, atatakái, atúi, atui, hayái, hosíi, hosói hukái など

(Bloch & Jorden, 1945b, p. 596)

(34) 日本語で質問し、日本語で答える練習。【Q&A】【意味】【語彙】

1. Tamágo to náihu to, dótira no hoo ga kowareyasúi n̄ desu ka?

2. Anáta wa, tañzyóobi ni nání ga itibañ hosíi n̄ desu ka?

(Bloch & Jorden, 1945b, p. 610)

(35) 日本語で質問を与え、正しい答えを3つの中から選ぶ練習。【意味】【語彙】

1. Niñziñ ya daikoñ ya hooréñsoo nádo o uru hito wa, nán to iimásu ka?

(a) yaoya; (b) tabakoya; (c) kyokuñ

2. Depáato de hatairaite ite, monó o utte iru oñna no hitó wa, nán to iimásu ka?

(a) zyotyuu; (b) teñiñ; (c) kyúuzi

(Bloch & Jorden, 1945b, p. 631)

(36) 文の前半、後半を探して、結びつける問題。【マッチング】【意味】

1. Zidóosya o asoko de tomeru to,

a. to kikaremasita.

2. Tomodati no tañzyóobi da kara,

b. nání ka kawanákereba narimaséñ.

3. Dóko de umaretá ka

c. zyúñsa ni sikararemasu.

(Bloch & Jorden, 1945b, p. 646)

(37) 縮約形を作る練習。【活用】【音声】

The passive causative verbs in the Basic Sentences are all given in the longer form. Go back to the Basic Sentences and change all the passive causatives to the shorter form.

(Bloch & Jorden, 1945b, p. 666)

(38) 同音異義語。【語彙】【意味】【音声】

You have learned several pairs of words that sound alike but mean different things, like English 'rubber' band' and '(brass)band'. Each of the following pairs of phrases contains a word-pair of this kind. Use each phrase in a sentence that will make the meaning of the doubtful word clear.

1. (a) watakusi no utí (b) ása no uti 2. (a) Nihoñ no húne (b) nihoñ no eñpitu

(Bloch & Jorden, 1945b, p. 666)

(39) () の3つのうち、正しい答えを選ぶ問題。【語彙】【意味】

1. (Inú, niwatori, néko) wa, tamágo o umimasu.

2. Nihón zya, tá o tagayásu toki ni (usi, kotori, buta) o tukaimasu.

(Bloch & Jorden, 1945b, p. 712)

(40) Riddles. 【読解】【語彙】【意味】【なぞなぞ】

1. Watakusi wa tatémono desu. Watakusi ní wa, heyá ga takusañ arimasu. Kodomótati wa, watakusi no náka de beñkyoo-simasu. Watakusi wa, nán desu ka?

(Bloch & Jorden, 1945b, p. 732)

(41) 文の最後の述語を「ながら」に変えて、後半の文を考える練習。【活用】【作文】

1. Hutótta kyúuzi wa, utá o utatte imasu. 2. Mégane o káketa gakusei wa, siñbuñ o yóñde imasu.

(Bloch & Jorden, 1945b, p. 741)

(42) 語の意味を日本語で説明する練習。【語彙】【作文】【自由発話】

1. Kondate 2. Kóogai 3. matiáisitu 4. nakóodo 5. seiyoohuu 6. syokudóosya 7. syosai

(Bloch & Jorden, 1945b, p. 783)

(43) Plain style に変える練習。【スピーチスタイル】

Go back to the Listening In of Units 21,22,and 23. Turn the conversations into the plain style by changing all verbs, adjectives, and copulas into the plain form and making any other changes that are necessary.

(Bloch & Jorden, 1945b, p. 796)

(44) 適当な助数詞を入れて文を完成させる練習。【語彙 (数)】【語順】

1. Húne ga 3 háitte kimasita. 2.Kono uti ni imá ga 2 arimasu. 3.Usi o 2 kátte imasu.

(Bloch & Jorden, 1945b, p. 838)

(45) 自動詞他動詞の文作り。【語彙 (自他)】【作文】

ageru agaru, akeru aku, atuméru atumáru, hazimeru hazimaru, kaeru kawaru, káesu káeru

(Bloch & Jorden, 1945b, p. 889)

(46) () の中から、正しい助詞を選ぶ練習。【文法】

1. Koko (kara, kéredomo) sañtyoo (bákari, sika) iku (wa, to), migi (ni, no) hoo (ni, e) áru (kara, to) omoimasu.

(Bloch & Jorden, 1945b, pp. 889-890)

(47) 与えられたトピックについて、5分で話す練習。【自由発話】

1. Describe in detail the layout of a typical American home, or of your own home. Tell what rooms are on each floor, where they are with relation to each other, and where they are with relation to each other, and what each one is used for. Describe the furnishings of each room. Be as explicit as you can.

2. About American customs. 3. American educational system. 9. A visit to a Japanese home.

(Bloch & Jorden, 1945b, p. 895)

以上が *Spoken Japanese* に所収されている 47 パターンの練習問題である。Bloch が作成した問題は Bloomfield の練習問題に比べると量も多く、パターンも多種多様である。

3.3 Jordenの*Beginning Japanese*

Beginning Japanese の練習問題は、(2-3)で高見澤 (2005) を引用したが、具体的にどのようなものであったか、幾つか例を挙げておきたい。

(1) 発音練習

a ‘oh!’ A-o ‘blue’ u-E ‘top’ e ‘picture’ A-u ‘meet’ i-I-E ‘no’ o-O-u ‘conceal’

(Jorden, 1963, p. xxii⁷)

(2) 代入練習 Substitution Drill

1. Where is that? Sore (wa) doko desu ka
2. Which one (of three or more) is that? Sore (wa) dore desu ka

(Jorden, 1963, p. 83)

(3) 文法練習 Grammar Drill (based on Grammatical Note 5)

1. Eki no mae ni arimasu. /yoko/ Eki no yoko ni mo arimasu.
2. Tookyoo ni ryoozikañ (ga) arimasu. /Koobe/ Koobe ni mo ryoozikañ (ga) arimasu.

(Jorden, 1963, p. 87)

(4) 応答練習 K.Response Drill (based on Grammatical Note 2)

(Give the answer in the same basic form as the question.)

1. Koko (wa) doko desu ka /Koobe/ Koobe desu.
2. Amerika-taisikan (wa) doko ni arimasu ka /Tookyoo/ Tookyoo ni ariimasu.
3. Asoko ni nani (ga) arimasu ka /kooeñ/ Kooeñ (ga)arimasu.

(Jorden, 1963, p. 88)

(5) 待遇表現練習 L.Level Drill

1. Tanaka-sañ imasu ka Tanaka-sañ irassyaimasu ka
2. Tabako arimasu ka Tabako gozaimasu ka

(Jorden, 1963, p. 88)

(6) 拡大練習 M. Expansion Drill

1. [It]’s beyond Mukoo desu.
2. [It]’s beyond the post office. Yuubiñkyoku no mukoo desu.
3. [It]’s beyond the big post office. Ookii yuubiñkyoku no mukoo desu.

(Jorden, 1963, p. 89)

(7) 補足会話練習 Short Supplementary Dialogue

1. A:Watakusi no zisyo doko desu ka B:Koko desu yo
2. A:Kyoo no siñbuñ koko desu yo B:Wakarimasita. Doomo.

(Jorden, 1963, pp. 91-93)

4. 考察

Bloomfield の練習問題が 10 パターンだったのに対し、Bloch の練習問題は 47 パターンと非常に多くの練習問題が準備されていたことがわかる。先にも述べたが、このうち(1)から(6)は SJ や *Spoken Dutch* 以外の教科書にも共通して配置されている問題である。

Bloomfield は翻訳練習を多く用いた。Bloomfield ほど多くはないが、SJ にも翻訳練習はある。しかし(6)のようにただ文を訳すものもあれば、(8)のようにマッチングにしたり、(32)のように英語の語を聞いて瞬時に日本語で言うという、ある意味ゲームのような要素を含んだものもあり、学習者を飽きさせない工夫が感じられる。数詞と助数詞に関する練習が多いことは注目すべき点である。日本語は数える際の音変化が多く、助数詞の種類も多い。SJ が ‘Sono nisatu no hón o kudasai’ と ‘Sono hón o nisatu kudasai’ (Bloch & Jorden, 1945a, p. 228) で意味が変わることを述べているように、語順や助詞も複雑である。学習者は数に慣れるまでに多くの練習を必要とする。暗記が多く、単調になりがちな数の練習だが、Bloch の問題はどれも面白いものである。縮約形や同音異義語に関する練習があるのも優秀な音声学者だった Bloch ならではの視点と言えよう。

スピーチスタイルに着目した練習を現代の日本語教育に定着させたのは Jorden だと(2-3)で引用した高見澤は述べたが、(43)にあるように Bloch が先に実践していることがわかる。後のオーディオ・リンガル・アプローチで多用される応答練習、結合練習、変型練習なども SJ の中に見られる。数は多くないが、ゲームやなぞなぞもある。学習者が楽しく語学習得できるように工夫されているのは、Bloch が優秀な言語学者だったことに加え、彼自身が熱心な日本語学習者でもあったことの表れであろう。SJ に収録された練習問題は、単に丸暗記することのできる練習問題ばかりではないことが明らかになった。

Jorden の練習問題との比較で言うと、Bloch の練習問題は、オーディオ・リンガル・アプローチほど明確かつ整然とパターン化はされていない。SJ では代入練習と拡大練習に相当するものは見当たらなかった。しかし、文法練習、応答練習、待遇表現練習、補足会話に当たるものは確認できた。また、SJ には翻訳や作文など、*Beginning Japanese* には見られない種類の問題も存在した。Bloch の練習問題は、Jorden によって忠実に受け継がれ、現代の日本語教育に多大な影響を与えている。

5. まとめ

ASTP 教授法は模倣暗記が中心ではある。しかし、一括りに ASTP 教授法といっても、Bloch の SJ に収録された練習問題は量や方法の面で、ほかの *Spoken Language Series* とは一線を画するものであることがわかった。

構造を重視していて、この練習問題では応用力はつかないといった見解もあるかもしれない。しかし、この時代にこれだけの練習問題を考案した Bloch の業績は正当に評価されるべきであると考え。実際、空欄に助詞を入れるような問題は、現在の日本語教育でもテ

ストなどで多用される問題である。Blochが考えた練習問題は、明日にでも教室活動で応用できそうなものもある。数に関する練習は、ついおろそかにしがちだが、本来、日本語教師はアクセントと併せ、丁寧に指導していくべき項目である。このように、SJ所収の練習問題は、現代の日本語教育に携わる者から見ても実に示唆に富んだものだと言えよう。

<付記>

本稿は、池田（2017）の第3章を加筆訂正したものである。

¹ Army Specialized Training Program の略。アメリカが戦略上の機密を入手するために始めた語学研究と、軍人向けに行った語学教育プログラムのこと。

² 練習問題は、(1)から(6)までは、3.2 項の *Spoken Japanese* の問題提示順と同じ順番に並べた。(7)以降はページ順に並べた。

³ *Spoken Dutch* のオランダ語は Aids to Listening と Conventional Spelling の2種類の表記で書かれている。例えば ‘Good morning!’ は Aids to Listening では ‘ghoedēn-MORghēn!’、Conventional Spelling では ‘Goeden morgen!’ (Bloomfield, 1944, p. 2)と書かれている。本研究では Aids to Listening の方のみを引用した。

⁴ 練習問題は、*Spoken Japanese* での問題提示順と同じ順番に並べた。

⁵ *Spoken Japanese* の表記は、原文どおり引用した。á, í, ú, é, ó はアクセント核を表し、ñ は「ん」を表している。

⁶ レコードに音声収録されている。スクリプトは Bloch & Jorden(1945c)に記載がある。

⁷ 表記は全て *Beginning Japanese* の原文どおり引用した。ただし、原文ではアクセントや文末イントネーションの表記があるが、ここでは省略した。

引用文献

池田菜採子 (2014). 「Bernard Bloch の *Spoken Japanese* に関する研究 ―その成立の時代的背景―」『金城学院大学論集』, 2014 年 9 月号.

池田菜採子 (2016). 「バーナード・ブロックの *Spoken Japanese* 付属レコードに関する研究」『日本研究』第 52 集, 国際日本文化研究センター.

池田菜採子 (2017). 『Bernard Bloch の日本語教育への貢献』金城学院大学大学院文学研究科国文学専攻提出博士論文.

小出詞子 (1972). 「日本語教育について」『日本語教育指導参考書 3 日本語教授法の諸問題』東京: 文化庁, p.244.

関正昭 (1997). 『日本語教育史研究序説』東京: スリーエーネットワーク, p.99.

高見澤孟 (2005). 「E. H. ジョーデン女史の日本語教育への貢献」『昭和女子大学女性文化研究所紀要』第 32 号, pp.10-11.

Baba, T. (1873). *An Elementary Grammar of The Japanese Language*. Reprinted at 2009 London and New York: Routledge.

Bloch, B. & E. H. Jorden with the collaboration of Mikiso Hane, Toshio Kono, and others (1945a) *Spoken Japanese Basic Course Units 1-12* (War Department Education Manual EM 561),

- published for the United States Armed Forces Institute by the Linguistic Society of America and the Intensive Language Program, American Council of Learned Societies, pp. iv, v, 11, 14-15, 22, 24-25, 33, 48, 76-77, 82, 92-93, 120, 138, 145-146, 168-169, 206, 220, 228, 256, 294-296, 314, 329-331, 336, 339.
- Bloch, B. & E. H. Jorden with the collaboration of Mikiso Hane, Toshio Kono, and others (1945b) *Spoken Japanese Basic Course Units 13-30* (War Department Education Manual EM 562), published for the United States Armed Forces Institute by the Linguistic Society of America and the Intensive Language Program, American Council of Learned Societies, pp. 374-375, 491, 530, 548, 557, 596, 610, 631, 645-646, 666, 699, 712, 732, 741, 783, 796, 838, 889-890, 895.
- Bloch, B. & E. H. Jorden with the collaboration of Mikiso Hane, Toshio Kono and others (1945c) *Guide's Manual for Spoken Japanese: Basic Course Units 1-30* (War Department Education Manual EM 563). The United States Armed Forces Institute.
- Bloomfield, L. (1942). *Outline Guide for the Practical Study of Languages*. Baltimore: Linguistic Society of America, p.1.
- Bloomfield, L. (1944). *Spoken Dutch Basic Course Units 1-12*. (War Department Education Manual EM 529), The United States Armed Forces Institute by the Linguistic Society of America and the Intensive Language Program, American Council of Learned Societies, pp. 2, 10, 17-19, 23, 112-113, 204.
- Bloomfield, L. (1945). *Spoken Dutch Basic Course Units 13-30*. (War Department Education Manual EM 530), The United States Armed Forces Institute by the Linguistic Society of America and the Intensive Language Program, American Council of Learned Societies, pp. 269, 306, 344.
- Chamberlain, B. H. (1888). *A Handbook of Colloquial Japanese*. London and Tokyo: Trubner.
- Henderson, H. G. (1943). *Handbook of Japanese Grammar*. Cambridge, Mass.: The Riverside Press.
- Hockett, C. F. & Chao, Y. F. (1944). *Spoken Chinese Basic Course Units 1-12* (War Department Education Manual EM 506), The United States Armed Forces Institute
- Jorden, E. H. with Chaplin, H. I. (1963). *Beginning Japanese Part I*. New Haven and London: Yale University Press, pp. xxii, 83, 87-89, 91-93.
- Reno, M. F. & Vincenzo, C. (1944). *Spoken Portuguese Basic Course Units 1-12* (War Department Education Manual EM 512), The United States Armed Forces Institute
- Trevino, S. N. (1944). *Spoken Spanish Basic Course Units 1-12* (War Department Education Manual EM 509), The United States Armed Forces Institute
- Yamagiwa, J. K. (1942). *Modern Conversational Japanese*. New York and London: Mc Graw-Hill Book Company.